

春日部市在宅サービス多職種連絡協議会

春宅会協議内容（令和6年10月～令和7年5月）

- ・春宅会運営規程について
- ・春日部市医療介護職連携研修・交流会の企画、開催、報告
- ・春こい・らいん2024年度上半期・下半期報告
- ・2024年度健康フェアについて
- ・春進センター通信（春しん）について
- ・春日部市在宅医療介護連携推進事業10年史の発行について
- ・令和7年度ACP普及啓発講座について
- ・令和7年度および令和8年度の研修会日程について
- ・各団体からの連絡、提案及び活動報告



春
し
ん
2025



第25回春日部市医療介護職連携研修・交流会

令和6年11月27日開催

交流会テーマ：「地域包括支援センターとの連携を考えよう」
～地域づくりにおける医療介護職の役割や具体的な取り組みを考える～

<アンケート> ～春日部市地域包括支援センターとの連携で経験したことや要望など～

【包括】

（CM/包括）暴力的な精神疾患の家族への対応に、包括、居宅、病院、市の担当部署など、多機関、他職種連携がはかれ、問題解決に繋がったこと。

（CM/居宅）包括＝なんでもやってくれると思っている人が多いが、できないこともある。すべてを行うことはできないと知ってほしい→期待されても対応できないこともある。

【在宅】

（介護職/訪問・通所事業所）トラブルがあった際に相談にのってくださったのがとても助かっております。（看護師/訪問事業所）虐待事例で解決に導いてもらった。

【医療】

（薬剤師/薬局）コンプライアンス不安な患者がいたとき、介護の介入状況を包括に確認、情報共有したことが何度かあり、受け入れてもらえて心強かった。

（社福/病院・医診療所）困った場合は、一旦相談は受けてもらいたい。要介護度の方でも居宅介護支援事業所の役割に限られている為、協働で対応くださると本人にとっても良い。

（事務職/医診療所）包括支援センターから血液検査の値がよくないお年寄りを当院に紹介していただきました。コントロールが必要な方だったので、的確な案内に感動しました。こういった困った方の窓口が今後もあらゆる場面で必要だと感じました。当院も診療所ですが、そういった窓口の役目をするために、どの様にしたらよいか考えたいと思います。

（看護師/病院・医診療所）支援センターにより機動力が異なると感じる。同じ内容、似ている内容をそれぞれ担当センターへ伝えるが対応に差がある。





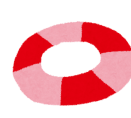
健康フェア

令和6年12月8日開催

会場：春日部市保健センター「ふれあいキューブ6階」

<アンケート> ～介護について困っていることや、専門職に相談したいことはありますか？～

- ・自分自身で介護すべきか、介護士などの専門家に相談すべきか考えています。家族で介護が必要となった場合、自分自身の仕事もあるので、専門職に委ねたほうがよいと思いますが（50代男性/市外在中）
- ・体の具合について（70代女性/市内在住）
- ・1番最初のアクション。介護サービスを受けるために必要なこと。高齢者2人とも介護が必要な時、どんな準備が必要か（50代女性/市内在住）
- ・90歳になる母を近所に住まわせてみています。色々あって介護を使えなくて大変です。（60代女性/市内在住）
- ・介護支援中。要支援2 耳が不自由。要介護5 腎臓悪く人工肛門。2人の食事作り中塩分と総カロリー・・・など（70代女性/市内在住）
- ・薬剤師（薬が処方されたときに相談）（80代女性/市内在住）
- ・夫は歩行が不自由。介護保険使いたいが主治医が内科（60代女性/市内在住）



第26回春日部市医療介護職連携研修・交流会

令和7年2月21日よりYouTube配信

研修会テーマ「がん患者のQOL向上に向けた医療介護職の連携と多職種協働を考える」

春宅会研修会 2025年2月17日

がん患者さんの痛みに対する医療用麻薬（オピオイド）の正しい使い方と適切なケアを一緒に考える

加藤 実
春日部市立医療センター ペインクリニック内科 主任

疼痛管理とオピオイド治療
～薬剤師としての視点から
患者さんのQOL向上に向けて～

がんと診断された利用者に対する医療介護職の連携と多職種協働を考える

訪問看護ステーションひまわり
岡本典子

がん患者へのケアマネジメントについて
居宅介護支援事業所「くらびくる」
主任介護支援専門員 志村聡郎

<アンケート> ～がん患者との関わりや医療介護連携で困った事・難しかった事・良かった事など～（居宅介護支援事業所）

- ・介護保険と情報共有をしながら、在宅で必要なサービスを取り入れる事。説明しても家族は医療と連携していることへの理解に乏しかった。ケアマネが出る幕ではないと拒否されることもあった。医師からの説明で、サービスにつなげることができて助かった。
- ・訪問看護さんには、いろいろお世話になりますが、自分から情報を取りに行かないと置いて行かれるような感じがありました。訪問看護ステーションさんの違いがあるのかも知れませんが。
- ・今までケアマネとしてかかわれたがん患者（利用者）様は、病院退院時に退院支援看護師さんやMSWさんとの連携がしっかりと取れたケースばかりだったので、連携において特に困ることはありませんでした。（包括支援センター）
- ・医療がメインとなってサポートしていくため。ケアマネはサービスに対して事後報告になる事が多かった。
- ・独居で親族と関わりが少ない方の余命告知について、余命の伝え方がHPよりできてなかったため、最終的な"場所"をどこにするかと本人が納得しきれていなかった。

第27回春日部市医療介護職連携研修・交流会

令和7年5月14日開催

交流会テーマ：「がん患者のQOL向上に向けた連携を考えよう」
～緩和ケアにおける医療介護職の役割や具体的な取り組みを考える～

<アンケート> ～研修に参加した感想や意見など～

- ・多職種と交流、思い・意見・有益な情報が聞けて良かった、勉強になった。（同様30件）
- ・医師の「病気はよくできないかもしれないけれど、これからの生活はよくできるよ」と声かけをしているという、**前向きな生活に導いている**という言葉に感動しました。（リハビリ/病院）
- ・初めてお話しする方々だったが、色々なお話が聞けました。春日部の審査会のお話も聞けました、**緊急審査**というシステムができたとのこと。（看護師/訪問事業所）
- ・緩和に関わる頻度は職種によって働く場によってもずいぶん変わる。自分の職種以外でもがんの特化した**専門の先生方**、市内にある**資源を知る**ことができてよかった。（薬剤師/薬局）
- ・同じグループの方たちが、余命わずかになったときに**大切にしたいもの**を聞くことで、親しみを感じることができた。（社会福祉士/包括）
- ・他職種の方と話しが出来て大変良かった。①この内容は**在宅介護の前の段階**である程度解決していなくてはいけない。②家族と個人を支える又、**経済的問題**がある（医師/医診療所）
- ・今まで交流した事のない施設の方々と交流できた。 コロナ禍で一度先細りした在宅の分野が高齢化の加速で需要が増えているので、色々な**施設と連携してネットワーク**を広げ、患者さんのサポートを充実させたい。（医師/医診療所）



～自分自身が緩和ケアを受けた場合に大切にしたい大事なことは何？～

<身体面・医療面などのこと>

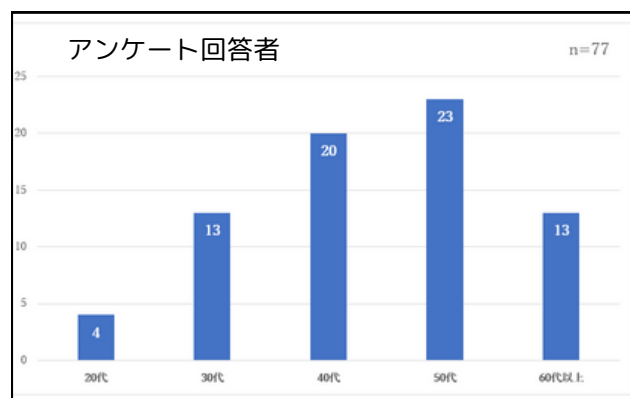
- ・**延命**しない。**予後予測の説明**。**症状把握と終活**。
- ・キレイでいたい、**清潔**が保たれる（同様1件）
- ・**苦痛緩和** 疼痛管理（同様7件）
- ・最後に**人として**、食事やトイレなど**自分で**。
- ・**口から食べられる**まで食物を食べたい（同様2件）

<自分自身の心・生活面など>

- ・自分のことを**支え**てくれる人
- ・最後まで**自由**に生きたい。（同様3件）

<家族・周囲の方々について>

- ・**家族**と関わる時間を大切にしたい（同様1件）
- ・自分らしくには「行動できるもそうだが、その環境に**今までと変わらず**人(家族や友人)」がいる**安心**できる状態（同様1件）



訪問型サービスCについて

○日常生活で何か困ってませんか？

- ・骨折治療後、転倒が怖くて外に出ることができない・・・
- ・階段昇降が辛い。外出が億劫になってきた・・・
- ・ゴミ出しが辛い・・・
- ・重いものが持てなくなって買い物に行けない・・・
- ・十分な栄養とるにはどうしていいかわからない・・・



○そんな時は訪問型サービスCをご活用下さい！

- ・訪問型サービスCは、介護予防が必要な方に、保険・医療の専門職が、利用者本人を取り巻く環境へのアプローチも含めたバランスの取れたサービスを短期集中的に提供することにより、日常生活の活動性を高め、家庭での役割や地域への参加につなげることを目的としています。



○ご利用になれる方

- ・要支援1と要支援2、または事業対象者（基本チェックリストに該当した方）で、次の項目のいずれかに該当する方
- ①日常生活活動の維持改善が必要な方
- ②住民主体の通いの場などの社会資源の利用を目標としている方



○実施内容

- ①利用者の目標を達成するために、必要な専門職（看護師・理学療法士・作業療法士・管理栄養士・歯科衛生士など）を選定し「訪問型サービスC支援チーム（以下チームC）」を結成します。
- ②チームCが利用者の自宅に（週1回以上、3か月間）訪問し、生活環境や環境の改善及び悪化予防のための助言を短期集中的に行います。

○利用者の声（80代 女性 事業対象者）

「サービスを利用した経緯を教えてください」

- ・自宅内で転倒し、左大腿骨頸部骨折にて入院治療しましたが、自宅退院後は屋外に出ることに不安になってしまい、自主トレーニングも教えてもらいたいと思い地域包括支援センターの職員さんに相談したのが、利用のきっかけです。



「サービス期間中はどのようなことを行いましたか？」

- ・自宅での生活のポイントについてや、自分で運動する方法などを教えてもらいました。そのほかにも、外歩きを見てもらい、安全に歩く方法を練習しました。

「サービスを利用してどのような変化がありましたか？」

- ・はじめは、かかりつけのお医者さんまで歩いていけるようになれたらいいという気持ちで始めたのですが、すぐに歩いていけるようになりました。
- その後は、地域のサロンなどで継続的に社会参加や運動することが大切だと教えてもらったので、地域包括支援センターの職員さんにも協力してもらい近所のサロンに参加するようになっています。
- 時々、病院受診の時には訪問型サービスCの担当の方に会うことがあるので、お顔を見るとホッとして今の様子などをお話することがあります。

